



兵協連だより

HYOGO CONSUMERS' CO-OPERATIVE UNION

2020 **1**



手書きの歌詞を見てみんなで合唱



障がい者の就労を支援する「キッチンつながり（就労継続支援B型事業所）」で焼きあげられた、安全でおいしい日替りのケーキを試食させていただきました。

11月11日（月）生活問題研究会「居場所研修」で神戸市東灘区にある認知症カフェ「umeのつばやき」を訪れました。どこか懐かしい雰囲気のカフェは、地域の方が集う人気の場所となっていました。（関連ページP13）



兵庫県生活協同組合連合会
会長理事

木田 克也
(きだ・かつや)

「安心してつながる力」

新年あけましておめでとうございます。会員のみなさまにおかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年、阪神・淡路大震災から四半世紀という区切りの年であり、また私たち兵庫県生協連にとりましては、70周年という節目の年となります。

そこで改めて、私たち生協に期待されていることを考えてみました。

これまで、活動や事業をすすめるうえで「人と人がつながる」ことを大切にしてその価値を共有してきました。

そして今では、人のつながりだけにとどまらずに、さまざまな協同組合同士はもちろんのこと、行政やNPOなどそれぞれの地域における諸団体とのつながりも拡がり深まっています。

また、10年くらいの先を見据えてビジョンづくりをすすめる論議の中でも、よく使われる重要なキーワードが「未来につながる」「地域とつながる」など「つながる」というフレーズです。

ところが、先日「つながらない権利」という言葉を見ました。

つながりを否定する表現に驚いてその意味をみると、具体的には、休日に上司からの電話やメールを拒否できる権利というものでした。

しかし、もう少し踏み込んで考えると、こちらが意図しない一方的な連絡

や通知、そして情報がスマホなどを通して次々に送られてくる状況や、場合によっては人を傷つけたり欺いたりするものもあり、当然、そのようなつながりは避けたいという意味も含まれるものと思います。

人は一人では生きられませんから、誰しもが持っている誰かとながりたい願望と、でも安易につながるのは危険を招くという現実があります。

このような、つながることが不安やリスクを増大させていく社会に対して、「助け合い支え合う」ことを基本的価値として大切にする生協は「安心してつながる」機会を創りだしていくことが大きな役割だと考えています。

例えば、「生協のサークルだから話が弾む」「生協の事業だから心配なく利用できる」など、生協の活動と事業に参加し利用することそのものが、幸せなつながりを生み出すことだと思えます。

より良いくらしと地域を創る力は「安心してつながる力」によって生み出されるといっても過言ではありません。

この70周年を機に、私たちはコープのある街、協同のあるくらしを目指して、色々な場を通して生協の価値をさらに広く発信していきたいと思えます。

今年もご一緒に未来に向けてワクワクする年になりたいですね。

CONTENTS

2. 想点
3. 会員生協：今年の抱負
13. 会員生協：今年の抱負／生活問題研究会「居場所研修」報告
14. 第2回共済生協部会「研修会」報告／第2回保健・医療・福祉研究会「講演会」報告
15. 虹の仲間で森づくり 参加報告／第4回理事会 報告

16. 第1回災害対策委員会 報告／【単協通信】生活協同組合コープこうべ
17. 第18回税務・経理講習会 ご案内／第10回労働安全衛生研修・学習会 ご案内／フェニックス共済 お知らせ
18. 協同組合のかけ橋
19. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓
20. 2019年度ひょうご消費者セミナー ご案内／県連行事予定／編集後記



2020年 今年の抱負



阪神淡路大震災から25年



生活協同組合コープこうべ
常勤理事

中川 寿子
(なかがわ・ひさこ)

あけましておめでとうございます。
今年、東京オリンピック・パラリンピック開催の年。その理念通り、世界の人々と友好を深め、人間の尊厳に重きを置く社会に一步近づくとともに、ことを願います。

1月17日には阪神淡路大震災から25年目を迎えます。

25年間で大きく前進したのは「被災者生活再建支援法」でしょう。当時は、私財の補償は義援金に頼るしかなく、多くの方々が住み慣れた土地での生活再建を断念しました。兵庫県生協連も兵庫JCCの一員として、自然災害に対する国民的保障制度を求め、署名や要請活動を推進。紆余曲折を経ながらも、議員立法による法制化を後押ししたのは全国の生協組合員ら2500万筆の署名でした。

また、阪神淡路大震災では、発災後1年間でのべ138万人が災害ボランティアとして活動。その記録は未だ塗り替えられていません。「ボランティア元年」から四半世紀、昨年の台風19号の被災地では、マンパワー不足が問題になっています。高齢化が進み、経済的・心理的なゆとりが減った私たちの社会は、じわじわと厳しいものになっているのでしょうか。

阪神淡路大震災から25年、今一度歴史をひもとくとき、生協らしい助け合いの活動を前進させる年にしたいと思っています。

2020年、希望へ行動する年に



生活クラブ生活協同組合
都市生活
専務理事

角田 学
(すみだ・まなぶ)

あけましておめでとうございます。
今年、兵庫県生協連は70周年を迎えます。会員生協の一員として県下の生協の歴史を誇らしく、また連帯の力を心強く感じます。

例えば、昨年10月に、子育て支援の「みんなのひろばリーチ」を開設することができましたが、実現にはろっこう医療生協の皆さんから大きな協力をいただきました。まさに、県連の活動を通じて日頃から生協間の交流や連帯があったからこそと感謝しています。

生活クラブでは、F(食料)・E(エネルギー)・C(ケア)を地域の中で循環、自給する社会を目指した活動をめざしています。私たちの生協単独でできることは小さく、同じ地域にある様々な人のネットワークにつながることで、地域の一員として一緒に考え、実現していくことが大切だと考えています。

世界各地で「百年に一度」の異常気象が毎年続く現在の状況は、もはや「気候変動」を超え、人類が直面する「気候危機」と表現されています。「サステイナブル(持続可能)な生き方」は、次世代を生きる子どもたちに、この世界をきちんと手渡していくための希望への行動です。県下の生協の仲間皆様と一緒に、行動する年とできるように努力していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事

前田 陽一
(まえだ・よういち)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

2019年度は第4次中期計画の初年度として、組合員活動と事業の連携を課題とし取り組んでまいりました。組合員活動では、持続可能な社会をつくるためには平和で自由な社会が前提であること。ひとたび事故が発生すると私たちが住む場所を半永久的に奪う原発や核処理施設をなくすこと。世代を超えての影響の可能性を否定できない遺伝子操作食品に反対し、国産オーガニックを広げること。いのちとくらしの源である水や種子などは自由経済に委ねるのではなく地域で守ること。プラスチック削減など自然に負荷をかけない行動を行うことを課題として取り組んでいます。

一方、事業では伸長が鈍化しています。生協の独壇場と言われた宅配事業へ多くの業種が参入し、欧米や中国で急速拡大しているオーガニックは日本でも市場拡大が予想されるなど、私たちの存在意義が問われています。環境の変化に対応しながらも、生協の事業や活動は何のために行っているのか？ 前身の共同購入から40年以上が経過し、改めて問直す時が来ていると考えています。社会や地域の様々な課題について、皆さんと一緒に役割を果たしていきたいと思っています。



生活協同組合連合会
コープ自然派事業連合
理事長

神野 利夫
(じんの・としお)

国産オーガニックを切り札に

あけましておめでとうございます。

2019年は元号が変わる節目の年として、各方面から30年を振り返るコメントが多く出されました。生協にかかわるものとして、評価を拾うと生活にとって大切なものが壊された30年といえそうです。3つ挙げると、弱者を守るセーフティーネット、日本の経済、民主主義となります。コープ自然派の視点を加えると「食の安心・安全」を挙げざるをえません。農業残留基準の緩和、遺伝子組み換え食品の表示変更、原発事故による内部被ばく問題、種子法廃止などがそれにあたります。さらに表示なきゲノム編集食品が市場に流れようとしています。

コープ自然派では「国産オーガニックを広げるために」のテーマのもと、昨年念願であった国産オーガニック小麦の調達が前進し、加工食品開発にも着手できました。欧米においてのオーガニックの価値は、食品としてだけではなく、生産における環境問題としても消費者に認識されています。健康、生活環境を守るためにもオーガニックは重要な切り札になると考えます。そのためにもオーガニックを、五感を通して理解してもらうことが必要です。

消費税増税等、格差を広げる政策が推し進められる中、生活者を守る立場で生協の果たすべき役割はますます大きくなっていると感じています。組合員、生産者と共に、よりよい地域社会を求めて協同組合問連帯をさらに深めていきたいと思っています。



西宮市職員生活協同組合
事務局長

山西 元
(やまにし・はじめ)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

当生協は、兵庫県下唯一の市役所生協として、組合員である西宮市職員への福利厚生のため、サービスの提供に努めています。

日本経済は、個人消費や設備投資など内需が底堅く推移し、緩やかな回復基調が続いているものの、米中の通商問題、英国のEU離脱問題などの影響から、先行きが不透明な状況であり、不確実性が高まっております。

当生協においても、供給高や手数料の減少等、厳しい運営を強いられています。

そのような状況ではありますが、昨年は生協創立50年の節目の年であり、組合員への感謝と還元、福利厚生の充実を目的とした取組を行いました。まず、組合員全員に市の観光キャラクター「みやたん」と50周年ロゴをプリントしたエコバックを配布いたしました。また、毎年秋に開催している生協祭では、福引の景品として50周年特別賞や、協賛賞を設けました。さらに、共同購入や売店での販売についても価格を抑えた組合員還元記念セールなども積極的に行いました。

本年も様々な事業に取り組めるよう、市の関係部局や互助会との連携をさらに深め、存在意義を高めていく努力を行ってまいりますので、ご指導とご支援を賜りますようお願いいたします。



新年特集

組合員に寄り添う活動を目指して



神戸大学生生活協同組合
専務理事

坂本 安弘
(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は消費税率の改定があり、消費者の負担を緩和するために、日本初の軽減税率が採用されました。対象は一部条件付き飲食品に限られており、1日の大半をキャンパス内で過ごされる大学の構成員には負担を強いることになっています。

特に院生・学生組合員にとっては、教材用品の購入や食堂利用等、さほど負担軽減につながっていないのではと考えてしまいます。

ただ、期間限定ではありませんが、生協がキャッシュレス還元事業者となり、組合員の皆様に還元できることは唯一の救いかと安堵していますが、これも6月以降はどうなるものか…。

消費者へ負担を強いる社会環境下において、生活協同組合の存在価値がこれまで以上に大きくなることは必然であり、その期待に絶対に応えなければなりません。このような時代でこそ、力を発揮するのが生活協同組合の責務であると強く思っています。

とは言うものの、私自身、まだまだ力不足・勉強不足のところが多々あります。

本年も皆様のご支援を賜り、組合員のキャンパスライフ支援に尽力する所存でありますので、何卒よろしくお願い致します。

2020年を迎えて



関西学院大学生生活協同組合/
大手前大学生生活協同組合
専務理事

池上 正寿
(いけがみ・まさひさ)

新年明けましておめでとうございます。

期中での交代となりましたが、昨年の8月より関学生協と大手前大学生協の専務理事に就任いたしました。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

近年、社会構造の変化や文科省が進める大学改革の影響は大きく、全国の大学で様々な変革が速い流れで進んでおり、関学と大手前でも大学の変化により生協の事業活動にも大きな影響が出ています。

それぞれ一例を挙げると、関学では、2016年から文科省が始めた入学定員厳格化により、特にここ2年は新入生数の減少や合格発表時期の長期化などで、新入生をお迎えするための新学期事業に強いインパクトを与えています。

大手前では2021年度からの、さくら夙川キャンパス(西宮)の学修機能強化に備え、新校舎建設工事が進行中ですが、それに伴う生協店舗の移転計画を練っているところです。

今年も変化への対応が遅れることがないよう、スピード感を持って頑張りたいと思います。

本年も何卒、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

次の10年



神戸市外国語大学
消費生活協同組合
専務理事

衛藤 昭二
(えとう・しょうじ)

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

西暦2020年となり10年の節目の年を迎え、私自身も神戸市外国語大学生協に赴任してから10年目になりますが、次の10年間は大学生協にとっても大きな転換期になると思います。

少子化の中、受験制度改革やそれに伴う大学の入試制度の変更など思い切った改革を行おうとしています。その影響で入試開始時期はますます早くなっています。新入生をお迎えする生協の方も1年中準備に追われるようになりました。その中で毎年少しでも大学生生活がより良くなるようにと準備を進めています。

「次の10年はどのようなだろう」と思いながら新年の抱負を考えておりますが、なかなか先が見えない中、10年前に更新した設備の入れ替えも始まります。

とは言え、まず2020年は良いスタートを切りたいと思いますので、今年も皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



甲南大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

「甲南に生協を！」から50年

新年明けましておめでとうございます。

昨年は甲南学園が創設100周年を迎え、100年の振り返りと共に、次の100年への一歩を踏み出した年でした。

本年は甲南大学生協が設立から50年という節目の年となります。50年前に「甲南に生協を！」と立ち上がった多くの学生、教職員の声を受けて、甲南大学生協は誕生しました。

50年の時を経て、社会が変わり、大学が変わる中で、甲南大学生協も組合員の意思で変化をし、発展をしています。組合員のニーズは日々変化し、多くの情報が錯綜しています。「生協が大学の中にあつてよかった」と喜んでいただけ、日々利用したいと選んでいただけのためには、組合員が本当に求めているモノ、コトをしっかりと捉えようとしているか、組合員が求めているコトよりも、自分たちの組織としての都合を優先してしまっていないか、常に問い続けたいといけません。

生協設立50周年として、次の50年に向けて、今後も組合員に期待され続けるためにこれまで積み重ねた思いを持って、一丸となって生協活動、事業に取り組んでまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどどうかよろしくお願い申し上げます。



兵庫県立大学生協同組合
専務理事

末松 泰信
(すえまつ・やすのぶ)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

今年はどういう年にならうか。

兵庫県立大学は県内複数の大学が2004年に合併・開学し、5学部・4大学院・附属中学高校合わせて、9つのキャンパスが県内に点在していて、それぞれ独創的で奥深い個性を発揮されています。大学の理念・目指す大学像の中で、大学生協が果たすべきだと考え得るキーワードを拾うと、地域社会への貢献、県内企業との連携、国際対話能力を持ったグローバル人材の育成があげられます。

それらにどう応えていくかですが、県内広域でかつキャンパス（生協店舗の有無があります）人口が大きく異なる組合員に対して、店舗がある可能性限り等しいサービスを提供する工夫、生協役職員のみならず学生とともに社会的な活動を発信していくこと、企業や行政と学生が消費・環境・食育などをテーマに交流できる機会を増やすこと、企業や行政と学生が互いに理解しあい最終的に就職につながるような接点を増やすこと、留学生と日本人との交流の機会と母国語外の語学力の向上をサポートすること、だと考えます。それぞれは現在進行中ではありますが、私自身で点数をつけるとまだ30点程度にしかなりません。

将来振り返った時に、大学生協は「令和」の時代からこうして始まったんだ、ということが年表に残るように、今できることを全力で邁進したいと思えます。本年もどうぞよろしくお願い致します。



神戸薬科大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2020年に向けて

新年明けましておめでとうございます。

2019年は、神戸薬科大学生協にとって、新しい取り組みを大きく進めた年となりました。保護者や学生の声から、大学の支援を受け初めて100円朝食の試験運用を行い、2020年の本格運用へ繋がりました。また、2月に開催した「合格者保護者説明会」では、対象者ほぼ全員にご参加をいただき、保護者の皆様が抱える入学前の期待や不安に関して直接顔を合わせて何う事が出来ました。

この「合格者保護者説明会」を開催したことでの一番大きな成果は、在校生スタッフの成長が見られた事にあります。準備から当日、反省会までを共に取り組み、自身の学生生活を先輩に話をすること、保護者からの質問に答えることで、薬大の良さを再認識できた様子でした。こういった学生の成長に関わることができることに、生協職員として一番のやりがいを感じています。

2020年は昨年行ったことを発展した形として、より大学からの協力をいただけることになり、開催回数を増やす予定になっています。多くの新入生、保護者の皆様が不安を期待に変えられるように、スムーズな大学生活をスタートできるよう、取り組んでまいります。

今後も薬大ならではの組合員と生協が顔の見える関係として、期待され、必要とされる生協となるよう、役職員一同一丸となって生協活動、事業に取り組んでまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、どうかよろしくお願いいたします。



新年特集

小さなコミュニティーにおけるSDGs



神戸親和女子大学
生活協同組合
専務理事

坂本 安弘
(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。昨年とは学生委員会の活動が、これまで以上に活発となり、学内での様々な企画にとどまらず、学外でも他大学の学生委員との交流やイベントへの参加などが積極的に行われました。

それらの活動を通じ、学生委員のメンバー各々が大きく成長した年になったと実感しています。

これらの経験や成長は、現時点では実感がなくとも、社会に羽ばたく際には大きな糧となることでしょう。このように大学生協は、活動を通して組合員の成長を促すことができる組織です。また、「組合員の成長＝生協活動の活性」になると考えています。この相互関係が、これまで以上に良い流れになりつつあります。

学生委員はスーパー組合員です。学生委員会の活動が組合員に波及し、生協が盛り上がるような仕組みを構築したいと考えています。ただ、このような優秀なメンバーもいずれ卒業してしまふことが、喜びである反面、課題でもあります。いかにこの流れを継続させるのか。小さなコミュニティー内におけるSDGsです。

本年も多くの組合員が生協の活動を通して、笑顔になるように頑張ります。

新年の抱負



園田学園女子大学
生活協同組合
専務理事

大須賀 修
(おおすが・おさむ)

明けましておめでとうございます。

昨年は2015年から続く大学・短期大学の在籍者総数が最も少なくなる厳しい年でした。

学生以外の組合員を増やそうと教職員への加入呼びかけを強め、新規採用された教職員の加入は増えましたが、供給高の減少に歯止めをかけるまでには至っていません。

ICカード利用促進も引き続き拘って実施しています。10月からの消費増税に伴うキャッシュレスポイント還元の効果もあり、ICカードによる精算は50%近くまで伸長してきています。

ICカード利用組合員への利用者還元も増やし、カード利用の促進を図ってゆきたいと考えています。昨年高校食堂の設備更新は実現しませんでした。引き続き更新のお願いをしています。また、大学の物販店舗の施設更新実現に向けて学園理事事に働きかけを引き続き行ってゆきたいと思っています。

今年も大学・短期大学の在籍者総数が大きく増えない中、厳しい経営環境が続きますが何とか踏ん張ってゆきたいと思えます。

今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

新年の抱負



甲南女子大学生活協同組合
専務理事

塩田 恵美
(しおた・えみ)

あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございました。

私事ながら、甲南女子大学生協の専務理事に就任して10年が経とうとしています。長く関わらせていただく中で、大学から任せられる生協としての役割も、「モノ」より「コト・サービス」が増えており、改めて福利厚生を担う生協であることを再認識しています。また、自分が学生生活を送っていた頃、そして就任して間もない頃と比べてみても、大学生の生活は、年々多忙になっていくように感じています。

そんな多忙な組合員に、生協スタッフも一丸となって寄り添っていく姿勢を忘れてはなりません。

2020年は新たに国際学部が誕生する年でもあり、甲南女子学園が創立100周年を迎える節目の年でもあります。甲南女子大学でも、未来に向けたさまざまな取り組みが進んでいます。こうした大学の変化、社会の変化にも柔軟に対応し、甲南女子大学生協として今後も大学の発展に貢献できるよう、取り組みを進めてまいります。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



新年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。旧年は大変お世話になりました。本年も何卒、宜しくお願ひ申し上げます。

今年度から専務理事として引き続き生協の運営に携わることになりました。教員との「二刀流」ではございますが、だからこそ自分にしかできない役割があると思っております。

さて、昨年は消費税の増税が実施され、世間ではキャッシュレス化が推進されております。組合員からの要望もございしますが、当生協では導入に至っておりません。これ以外にも組合員がより利便性を享受できるように、進めていかなければならないことが沢山あります。「規模が小さいからできない」ではなく、どのようにすれば実現できるかを考えていかなければなりません。

社会情勢に起因し事業環境は年々、厳しくなっておりますが、これからも、より学生・教職員に寄り添った運営を行えるよう、職員と力を合わせて尽力して参りたいと思ひます。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事

寺田 雅裕
(てらだ・まさひろ)

新年の抱負

明けましておめでとうございます。

一昨年11月より全国6地区の事業連合が合併し、新たな姿で臨んだ2019年ではありましたが、システム統合直後の混乱や、組織強化を追いかけるように迫り来る物流危機の影響に翻弄され、苦戦を強いられる一年となりました。

その中でも、会員生協が組合員に向き合うための支援機能強化に向けて、店舗支援・本部支援の諸課題に取り組んできました。

2020年は消費税率改定の影響も含め、大学生協を取り巻く事業環境は引き続き厳しいものがあります。しかし、だからこそ今後の私たちの事業と組織のありようを深く考え、会員生協が組合員のキャンパスライフに資する存在として役割発揮できるよう、未来に向けた方向性を定める一年にしていきたいと思ひます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。



大学生協事業連合
(関西北陸地区)
常務理事(地区業務統括)

中森 一朗
(なかもり・いちろう)

「三つの輪」のとりくみをおして、地域の期待に応えられる医療生協に

新年おめでとうございます。

昨年も多く自然災害が発生しました。被害に合われたすべてのみなさまに心からお見舞いを申し上げます。

昨年は、ふたつの大きな選挙を通じて、命とくらしを守る力が着実に前進していること、2017年に国連で採択された核兵器禁止条約の批准国が33カ国となり、世界的に核兵器をなくす世論が広がっていることを実感しました。

一方、税と社会保障の一体改革がすすめられ、給付削減と負担増により、必要な医療や介護を受ける権利が奪われています。

今年、昨年の総代会で確認した「第8次三か年計画」の2年目の年、創立60周年を記念したとりくみを実践する年となります。様々な困難のなかでも、組合員と職員が力をあわせて、組合員や地域の要求実現のためにとりくんできた60年を振り返りながら、「三つの輪」のとりくみをおして、安心してくらするまちづくりにとりくみ、地域の期待に応えられる医療生協となれるように、組合員とともに、「事業と運動」をすすめていきたいと考えています。

本年が組合員をはじめ、皆様にとって充実し、吉事が重なるよい年であることを祈願し、新年のご挨拶とします。今年もよろしくお願ひします。



神戸医療生活協同組合
理事長

道上 哲也
(みちがみ・てつや)



新年特集

時代の大きな節目としての2020年



尼崎医療生活協同組合
専務理事

福島 哲
(ふくしま・さとし)

少子・高齢化から人口減少という、だれも経験したことのない時代を迎えた日本ですが、2020年はこの国の20年後・30年後の将来の姿がほぼ定まる年になると思われまます。

就職氷河期世代（1971年～1981年生まれ）の高齢化と将来不安が社会問題になりつつありますが、この世代はバブル崩壊後の景気後退期に社会に出たために非正規就労が多く、年金受給額が少なく将来に大きな不安を抱えています。その人数は2,045万人と多く社会全体に大きな影響を及ぼします。

今年予定されている年金改革は、正社員になれずにいるこれらの人々が、将来貧困状態に陥るのを防ぐことができる可能性のある最後の機会です。それは厚生年金加入対象を非正社員にも広げ、「労働者皆厚生年金加入」が実現するかどうかにかかっています。しかしこの国の社会保障は「企業が世界一円気に活躍できる国をめざす」首相に呼応する経産省が、財政も社会保障も仕切る局面を迎えて潮目が大きく変わろうとしています。

社会保障、この生活に直結していながら、その大切な内容が知られていない問題について、そのあるべき姿を今年も微力ながら内外に発信していきたいと思えます。

今年もよろしくお願ひします。

新年の抱負



阪神医療生活協同組合
専務理事

蓮見 克也
(はすみ・かつや)

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。2020年2月で阪神医療生活協同組合は法人認可50周年を迎えます。50周年を記念して5月5日、6日と50周年記念講演と祭りを行います。

また50周年記念誌の発行、50周年を記念した歌を作成し、今後のアンセムソングとして残るものが出来たと感じております。

今までの50年と今後の50年を考えた時に、地域の様相が劇的に変わっていくように思います。温暖化により自然災害は多くなる中で、生協が防災をどのように実行していくのが問われていきます。地域は家族の形が単身世帯で一番多くなります。今まで経験したことのない、高齢化と人口減少が進む中で、阪神医療生活協同組合がどのように地域に貢献していくのかを、今からさつちりと見据えて取り組みをしていかなければなりません。地域住民と同じ目線でもとらえられるように、いかに組合員と職員がつながれる場を作れるかが勝負になると思っています。

そのためにも、協同組合として皆様と協同しながら取り組みを進めていきます。

今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

職員・組合員 ONE TEAMで



宝塚医療生活協同組合
理事長

砂盛 光偉
(すなもり・みつひ)

新年明けましておめでとうございます。昨年、元号が令和に変わりましたが、自然災害が多発し、改めて災害に対する体制作りが問われていると感じています。阪神大震災での全国からの支援を忘れることなく、被災地への支援は継続していきたいと思っています。

宝塚医療生活協の組合員は、現在、約14,000人まで到達していますが、年々、高齢となった組合員からの減資や脱退が増加しています。世代交代や終活などが大きな要因となっています。新たな組合員を増やすため、新班作りと班活動の活性化に努めています。大きな変化を生み出すまでには至っておりません。

法人を支える経営活動と組合員活動を伸ばすため、職員と組合員が一体となり、前進していけるよう奮闘していきたいと考えています。今年、「ONE TEAM」を掲げて、患者さん・利用者さんが、地域で安心して暮らせる拠点としての役割を果たして行きたいと思っています。



新年の抱負



姫路医療生活協同組合
専務理事

黒岩 勝博

(くろいわ・かつひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年は2019年度総代会スローガン「事業と活動を通じた社会貢献をひろげ、最期まで安心の在宅生活」を実現します」を掲げ、積極的な事業展開、本部機能強化等を推進しました。

4月には看護小規模多機能事業所を2か所開設（小規模多機能事業所からの転換型）するとともに、7～9月にかけて3つのヘルパーステーションの再編・統合、9月に姫路市以外の地域で初となる訪問看護ステーション太子と居宅介護支援事業所太子の開設等をおこないました。在宅における重度者や医療的ケア、看取りニーズにさらにお応えできる体制を構築し、サービス提供地域を大きく広げることができました。また、4月に生協本部に事業連携室の設置、介護事業部にコンプライアンス担当課長の配置、地域サービスセンターの新規開設等、本部機能の強化、地域活動の推進をはかりました。全介護事業所にICT（情報通信技術）の導入もおこないました。今年も、環境変化と地域ニーズに機敏に対応し、新たな事業展開を計画的に推進したいと考えています。利用者増をはかり、多くの組合員や地域住民に喜んでいただけるサービスを提供することで地域貢献をはかります。「楽しく、おいしく、オシャレ」な地域活動をひろげ、SDGs（持続可能な開発目標）の具体化をはかり、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざします。

阪神淡路大震災25年、創立40年、新たな出発の年に



ろっこう医療生活協同組合
専務理事

森本 浩

(もりもと・ひろし)

新年明けましておめでとうございます。

阪神淡路大震災から25年。あのとき大勢の組合員が被災し、1000人を超える方々がお亡くなりになりました。事業所も全壊や半壊して、ろっこう医療生活協同組合の危機を迎えましたが、全国各地からのご支援と組合員の協力協力の力でよみがえり、おかげさまで本年11月には創立40年を迎えます。

創立当初、灘医療生協（2000年、ろっこう医療生活協同組合に名称変更）の組合員は500人。事業所は灘診療所だけで職員4人でスタートしました。今日では組合員は17,000人を超え、15の事業所に220人を超える職員が勤務しています。

さらに今年も、新5か年計画（2025プラン）スタートの年でもあります。「協同組合の精神を一口にいえば助け合い組織である。」という賀川豊彦先生の思想を今一度学び直し、新たな出発の年にしたいと考えております。

春には「忘れない！ 東日本大震災『紙ふうせんコンサート』」を、秋には創立40周年記念イベントを計画しております。今年もよろしくお願いいたします。

健康で安心して住み続けられるまちづくりを



たじま医療生活協同組合
専務理事

和田 茂孔

(わだ・しげよし)

新年あけましておめでとうございます。

2019年は度重なる台風が東日本を襲い大規模災害が相次ぎました。今後も大規模災害の発生は懸念され、組合員のライフラインや職員の安全確保は大きな課題です。早急な災害対策・防災マニュアル、BCPの策定は今年度の課題です。

また、厚生労働省が再編や統合の検討が必要と判断した全国424の公立・公的病院名のリストを公表し、兵庫県内の15病院、但馬で4の病院も含まれています。「国は、国立病院を但馬に設置することもなく、但馬の医療は但馬に任せていくにせよ、今回の発表も、要らぬお節介」と地元からは反発が起っています。

4年前に誕生した、くらしのたすけあいの会「なんなっと」の活動も広がり豊岡の中ではなくてはならない存在となりました。組合員のみならず一般の方からも多くの依頼も受けています。支援者も少しずつは増え依頼者の支え手として大きな役割を果たしています。

私たちがたじま医療生協は、今年、創立25周年を迎えます。診療所では新たな所長を迎え入れる予定です。事業・生協活動において地域の要望に応えられるよう取り組み、だれもが健康で安心して住み続けられるまちづくりを進めていきたいと思っております。



新年特集

ハラスメントをなくそう



ひまわり医療生活協同組合
副理事長

三橋 徹

(みつはし・とおる)

新年を迎え、皆さんはどうお過ごしですか。

昨年は、6月にILO（国際労働機関）の100周年記念年次総会があり、労働の世界における暴力とハラスメントの排除に関する条約（190号）が採択されました。日本でも5月に労働施策総合推進法が改正されてパワハラ対策の法律が成立、10月、11月には指針案が出されました。

しかし、12月4日アフガニスタンで医師の中村哲さんはまさにこの暴力で銃撃され亡くなりました。追悼番組を見て、アフガニスタンで人が普通に当たり前に生きるために尽くした方だったとあらためて思いました。

暴力とハラスメントが横行する中、それをなくす重要性を明らかにして法律で取り締まることは前進と思います。が、それだけでなくならないことは皆がわかっているのではないのでしょうか。お互いに尊重して対話の中で新しいものを作っていく中村哲さんの姿勢、私たちが暴力やハラスメントをされたりしたりしている認識をもって、なくしていく必要があると思います。ありふれた評価やしつけや教育が、お互いを尊重すること、当たり前と思われることが幸せの基であることを見えなくしていると思うからです。

今年も一步一步、取り組んでいきましょう。

四半世紀の節目の年を迎えて



神戸市民生活協同組合
専務理事

菅原 隆喜

(すがはら・りゅうき)

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

二十五年前、「ここはいつたいてこの国なのだろうか」と思ったのは、私だけではなかったと思います。阪神・淡路大震災は、それほど現実から大きくかけ離れ、大都市が成す術もなく崩れ去っていくその姿に、私たちは人間の非力さを痛感しました。あれから多くの歳月が流れ、今年には四半世紀の節目を迎えます。その間にも各分野で多くの努力がなされて、災害対策がずいぶん進んだことはなによりでした。それでも全国で人的被害が後を絶たないのは、残念でなりません。

国連大学が過去に「世界自然災害リスク報告書」を発表しています。これによると日本は自然災害に見舞われる可能性は世界第四位で、インフラ整備や対応能力が評価されて、総合順位で一七位となっています。順位が上位ほど災害に弱いとされ、一位から順にバヌアツ、トンガ、フィリピン、グアテマラ、バンングラデシュで地球温暖化の影響を受けている途上国が上位を占めています。先進国では米国一二七位、英国二三一位、ドイツ一四七位、フランス一五二位で日本の順位は先進国の中でも際立って高いことに気づかされます。

私たちは、この災害大国に暮らしているのですから、やはり被害を避けて通ることはできません。そのために、被災後の生活再建をみんなで助け合う「生協の共済」などの普及について、節目となる今年一年、新たな気持ちで努力して参りたいと思います。

新しい時代とともに



尼崎市民共済生活協同組合
理事長

本田 良生

(ほんだ・りょうせい)

新年あけましておめでとうございます。

当組合に就任して、早や5年となりました。振り返りますと、組合員数は年々減少し当組合を取り巻く環境は依然として厳しい状況でございます。自然災害を対象とする保険商品を扱っておらず火災共済を主たる事業としていることが右肩下がり的重要因素となっているものと思っております。

昨年は大型の非常に強い台風19号により、河川が決壊するなど東日本に壊滅的な被害が発生しました。防災に対する意識がこれまで以上に高まっている中、やはり災害に対する生活の備え、また安心への備えということを改めて痛感いたしました。

このため、組合員のニーズに因應するためにも今年には自然災害の商品販売を目指して作業を進めて参ります。乗り越えなければならぬハードルは幾つかありますが、当組合の将来を見据え全力で取組んで参りたいと考えております。

本年も地域並びに組合員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。



令和の新年を迎えて



姫路市民共済生活協同組合
理事長

岡村 卓治

(おかむら・たかはる)

新年明けましておめでとございます。
「令和」という元号ではじめての新年を穏やかに
お迎えにられましたことあらためましてお喜
び申し上げます。

さて、昨年也非常に多くの災害が発生いたしました。
台風の来襲、首里城の火災、消費税のアップ（個
人的にはまさに災害）

日本列島が台風の通過コース上に位置しているこ
とから、その来襲による被害は避けることのできな
いものではありませんが、昨今における被害の甚大さ
は拡大する一方であると感じているのは、私だけ
ではないと思います。

これは、気候や社会状況等、環境の変化が被害の
拡大に大きく影響しており、環境の変化の速さに、
災害に対する予防や備えが追いついていないと言わ
れています。

私どもの姫路市民共済も、社会環境の変革に伴い、
必要とされるサービスが変化するなか、より良いも
のを常に組合員の皆様に提供できるよう、日々一層
の努力を重ねてまいる所存であります。

常に組合員の方々の気持ちに寄り添い、「安全」
と「安心」をお届けする活動に重点を置き、顔と顔
の見える関係や助け合いの精神を大切に、確実に
事業を継続していくよう努力してまいりたいと考え
ておりますので、今後におきましてもご指導・ご鞭
撻のほどよろしくお願い申し上げます。

希望と信頼



西宮市民共済生活協同組合
理事長

岸本 正

(きしもと・ただし)

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

新春恒例の西宮市消防出初式が今年も阪神南広域
防災拠点で開催されます。

消防OB隊としての行進も卒業し、テント席での
見学となりましたが、勇ましく行進する姿を見ると
心が躍ります。今では見る事が珍しい昔ながらの消
防絆纏姿なら尚更です。

ミニ知識のご披露です。

消防絆纏は一言でいえば火消しの制服ですが、背
中に組名、襟に役職が書かれています。

また肩の赤線の本数で指導者の階級が分かり、腰
の白線の本数で所属方面が分かります。

火災現場で重要な命令系統を明らかにする江戸時
代からの工夫です。

明暦の大火後の喪失感を打ち払い士気を高める為
に行われた出初式は、復興作業に苦しんでいた江戸
の人々に対し大きな希望と信頼を与えました。

今年も阪神・淡路大震災より25年、四半世紀が経
て事故や災害が多発する時代になりました。

災害や事故に遭われた方々に対し一筋の灯となり
希望と信頼を持って頂けるよう、組合員の皆様に寄
り添い心の通った活動に挑戦して参ります。

本年もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し
上げます。

たすけあいの60年



兵庫労働共済生活協同組合
専務理事

道上 昌一

(みちうえ・しょういち)

新年明けましておめでとございます。皆さま方
におかれましては、ご家族共々新たな年を健やかに
お迎えのこととお慶び申し上げます。

今年、兵庫労働共済は1960年の創設以来、創立60
周年を迎えることとなりました。これまでの運動や
事業推進活動に格段のご支援とご理解を賜り、心よ
り感謝申し上げますと共に、今後ともよろしくお願
い申し上げます。

さて、全労済では昨年6月、新しい姿を表す愛称
を「こくみん共済 COOP」としました。「こくみん
共済 COOP」とは、これからも労働者自主福祉を核
とし、さらにその取り組みを広げていくため「こく
みん」みんなのために、共済というたすけあいの仕
組みを提供する、協同組合(COOP)である。」こと
を表しています。

私たちは「みんなですけあい、豊かで安心でき
る社会づくり」という変わることのない理念のもと、
「共済」を通じて、人と人との「たすけあいの輪」
をむすび、「安心のネットワーク」をひろげていき
ます。

本年も引き続きご理解・ご協力を賜りますようお
願ひ申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年特集

阪神・淡路大震災の教訓を 今に活かすために



近畿労働兵庫兵庫地区本部
本部長

本多 義弘
(ほんだ・よしひろ)

明けましておめでとうございます。

本年は、阪神・淡路大震災から25年の節目の年となります。私自身「1・17のつどい」には毎年参加し、失われた尊い命を悼み、震災から得た経験と教訓を風化させてはならないとの思いを新たにしています。

当時、全国労金で取り組んだ震災遺児を応援する社会貢献預金「エール30」が労組の組合員やお客様から大きな支持を受け、結集運動のうねりとなりました。このことが近畿ろうきんの社会貢献の取り組みの礎となり、「東日本大震災復興支援定期預金」「サポートV」、社会貢献預金「笑顔スピリッツ」「すまいる」、そして現在の「笑顔プラス」という後継商品に引き継がれています。また、現在近畿ろうきんでは、「台風15号・19号被災障がい者支援募金」の取り組みを行っています。

昨今の自然災害に関する報道では「過去の常識が通用しない」との言葉が多く目に留まり、自然災害の脅威が拡大傾向とみる中では、災害に強いまちづくり、人づくりがこれまで以上に急務となっています。近畿ろうきんも、金融機能・ネットワークを活かした減災・防災の取り組みを、生協の仲間の皆さんとともに進めてまいります。

本年も当庫事業にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶いたします。

生活問題研究会「居場所研修」開催

今年度の生活問題研究会は、「居場所づくり～地域コミュニティの形成や社会的孤立防止～」をテーマとして活動を進めています。

これからの居場所の「ありたい姿」を考えるために、現在運営されている居場所の好事例や運営の課題を学ぶ目的で、11月11日(月)、神戸市東灘区にある認知症カフェ「umeのつぶやき」と、コープ園田（コープこうべ）にある「みなくる☆そのだ コープさんところ」の2か所を訪れました。

～認知症カフェ「umeのつぶやき」～

「umeのつぶやき」は、代表の丸本さんが「認知症の家族も一緒に、気軽に立ち寄れる場所があれば」と、3年程前にNPO法人ケアットと協力して立ち上げた認知症カフェです。認知症の方や介護をされている方、介護を終えられた方などこの日も15名ほどの方が来られていました。カフェの活動は、利用者に任せていて、「ボランティア」「利用者」といった垣根がなく、全員が気軽に話せる場となっていました。丸本さんも、「利用者の皆さんがやりたいことをする自由な活動が、カフェを継続できている理由の一つです」と話されていました。



「umeのつぶやき」
住吉川の防災について語る利用者さん

～くらしの拠点「みなくる☆そのだ コープさんところ」～



「みなくる☆そのだ コープさんところ」
前田統括の講義

◇講師：生活協同組合コープこうべ 地域活動推進部
統括 前田裕保氏

約98m²のスペースは、お店の一角で展開されているオープンな雰囲気、気軽に立ち寄れる地域の方の居場所となっていました。今回、設立当初から担当されている前田統括から、居場所づくりについてお話しいただきました。大切にするべきことは、「何をするか」よりも「誰とするか」が重要であり、「地域の方と一緒に作っていくことが大切」というポイントなどを教えていただきました。

2019年度 第2回「共済生協部会」研修会 開催

11月15日(金)、第2回共済生協部会として研修会を開催しました。テーマは「防災」。
さまざまな災害が頻発している中、「共済生協部会（各生協）として何ができるか」を考える機会として、行政の担当者からお話いただきました。

はじめに、「災害リスクに関する情報の解説」について、兵庫県県土整備部土木局総合治水課からお話いただきました。近年、大雨や台風による水害が増加しているため、「想定し得る最大規模の降雨」により浸水する区域等を示した「想定最大規模の雨量による浸水想定区域図」の見方・使い方についてや、兵庫県がすすめている「総合治水」について学びました。「総合治水」とは、水害から身を守るために「ためる」「そなえる」「ながす」を組み合わせた取り組みのことで、県や市町だけが取り組むのではなく、家庭でもできる「総合治水」についても学びました。

次に、「ひょうご防災ネットスマートフォン用アプリ」について、兵庫県企画県民部災害対策局災害対策課からお話いただきました。「ひょうご防災ネット」は、「避難に関する情報」などの緊急情報や、地震、津波、気象警報などの防災に関する情報を利用者に提供するサービスで、新たに登場したスマートフォンアプリのコンセプトや登録方法、使い方などを教えていただきました。



最後に、「兵庫県住宅再建共済（フェニックス共済）」について、兵庫県企画県民部防災企画局復興支援課からお話をいただき、共済の加入状況や給付状況、2020年1月17日(金)に開催される「1.17ひょうごメモリアルウォーク2020」についての広報などがありました。

防災を考えていくうえで不可欠な、命や暮らしをまもるための情報やツールがいくつも存在し、それらを知ること・活用することの重要性を学ぶことができた意義のある研修会となりました。

2019年度 第2回「保健・医療・福祉研究会」講演会 開催

講演テーマ：「イタリアの社会的協同組合から学ぶ
～日本の協同組合の役割を考えるヒントとして～

第1部 「排除と闘うイタリアの社会的協同組合」

第2部 「様々な協同組合がコミュニティに根付く流れ～コミュニティ協同組合とは何か」

第3部 「日本にどう活かすか」

今年度の保健・医療・福祉研究会では、「あらためて“協同組合”について詳しく知る」ことを目的に、11月19日(火)、長野県高齢者生活協同組合の田中夏子理事長を講師にお迎えし、講演会を開催しました。

講演は、イタリアの事例をもとに、それぞれの協同組合の成り立ちや発展の仕方についてお話しいただきました。イタリアでは地域間格差が大きく、地域ごとの協同組合のあり方が異なっていることがよくわかりました。国家財政が厳しい中、相次いで震災にも見舞われたイタリアにおいて広がっている社会的協同組合やコミュニティ協同組合の位置づけ・果たしている役割等を知ることができました。また、長野県高齢者生活協同組合（かがやき）の活動や取り組みを参考に、「これからの日本の協同組合が果たすべき役割」について学ぶ機会となりました。日本においても、地域性や組合員の思いを考慮し、これからの協同組合のあり方を考えていかなければならないと強く感じました。



長野県高齢者生活協同組合
田中夏子理事長
(前 日本協同組合学会 会長)

～豊かな海は豊かな森づくりから～ 「虹の仲間で森づくり」参加報告

11月30日(土)、神出神社(神戸市西区)で開催された「虹の仲間で森づくり」に兵庫県内の協同組合で構成される兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)の幹事・事務局が参加しました。「虹の仲間で森づくり」はJF兵庫漁連が協同組合間の交流も目的として実施しており、コープこうべが共催しています。「豊かな森が豊かな海を育てます」を合言葉に豊かな海^{*}を次世代へつなぐため、平成19年から森づくり(除伐作業を中心とした森林整備)に取り組んでいます。

参加者(169人)は、少人数のグループに分かれ、「ひょうご森の倶楽部」の活動リーダーから、豊かな海と豊かな森の関係について伺った後、適度に太陽の光が入る森を目指して除伐作業に汗を流しました。昼には瀬戸内産のタコや海苔、わかめを使った料理を囲み、協同組合間の交流(漁業者と消費者)も行いました。参加者は除伐作業や交流を通して、豊かな森や海への理解を深めました。



昼食交流会



除伐作業

※豊かな海とは、生物の成長に必要な栄養塩(窒素やリン)が適度に含まれた海のこと。瀬戸内海は高度経済成長期、沿岸部を中心に工場や人口が集中したことで水質汚濁や富栄養化などの問題が深刻化。このため、厳しい水質規制がひかれ、水質は大きく改善したが、一方で生物の成長に必要な栄養が不足し、漁獲量の減少やノリの色落ちが頻発している。JF兵庫漁連では、ため池のかいぼりや森づくり、海底掘り起し等、豊かな海を取り戻す取り組みを進めている。また様々なイベントで、多様な生命を育む「豊かで美しい海」の必要性を消費者に発信(ひょうご豊かな海発信プロジェクト)している。



2019年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

【開催日時】 2019年12月2日(月) 14:00～15:40

【開催会場】 兵庫県民会館 12階「1201」

【出席者】 木田会長理事、高橋副会長理事、松岡専務理事、
岡本、颯川、大沼、藤井、松永、福島、菅原(以上、理事)
金丸、中川、岡村(以上、監事)
道上様(オブザーバー)

<協議事項>

1. 兵協連創立70周年記念事業基本構想案について

<報告事項>

1. 分野別生協(出席理事、監事)からの状況報告について
2. 2019年度上期活動報告・収支状況報告
3. 2019年度上期監事監査実施報告
4. 2020年「新春トップセミナー・賀詞交換会」詳細について
5. 「ひょうごまるごと健康チャレンジ2019」進捗について
6. その他 兵協連行事・活動報告(10月8日～12月2日分)
7. 2019年12月～兵協連主要行事スケジュール

2019年度 第1回「災害対策委員会」開催

12月13日(金)、兵協連加盟生協の災害対策委員が集い、大規模災害を想定した兵協連の役割を確認することを目的に、第1回災害対策委員会を開催しました。

兵協連は2008年に兵庫県と「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定」を結んでおり、協定書には兵庫県内で災害等による被害が発生した際、県民生活の早期安定のための救護や支援活動において協力し合うことが定められています。この協定書や細目を含めて、兵協連の災害対策本部の設置基準や役割、緊急時に備えた準備について確認を行いました。次に、新たに作成する「大規模自然災害等緊急時における加盟生協情報集約(案)」について意見交換を行いました。

また、大規模災害(南海トラフ地震)を想定した訓練への参加や視察内容について、報告・共有化を行いました(①大阪いずみ市民生協と日生協の共催で行った「震災対応事業継続訓練」の現地訓練や対策本部開催訓練について②県災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議が行った「災害ボランティア連携訓練」の被災地外からの受援・被災地への応援を意識した支援体制訓練について)。その後、発災直後の安否確認や事業所・本部への出勤体制、訓練状況などについて意見・情報交換を行いました。

2020年は阪神・淡路大震災25年の節目の年。この機会にあらためて災害対策の見直しや、兵協連として危機管理だけではなく「暮らしの安全」を目的とし、加盟生協がつながりあって力を発揮していく必要があると強く感じました。



単協通信

生活協同組合コープこうべ

現地のニーズに合わせた支援をするために

昨年10月、台風19号で大きな被害を受けた長野県生協連からの要請を受けて、コープこうべの職員も現地に入りました。職員は災害ボランティアセンターや避難所の支援をしながら、9か所の避難所を訪問。被災した方々の困りごとや要望などをお聞きしました。

帰着後、現地の様子や被災した皆さんの困りごとなどを職員に向けて報告。「千曲川の決壊現場近くは、



まるで津波のように入量土砂が流入し家屋被害が大きい。また、細かい路地が多いため重機が入りにくいので災害廃棄物の運搬を軽トラックやボランティアの人海戦術に頼るしかない」など、現地の写真を見せながら話しました。報告を聞いた職員は、どんな支援ができるのか、アイデアを出し合いました。この内容は次に現地に向かう職員や組合員のボランティアに共有され、つながっていきます。

コープこうべでは、ハート基金(コープこうべ災害緊急支援基金)から長野県を含む1都9県の社会福祉協議会へ合計1100万円を拠出したほか、組合員、職員などによるボランティアバスを運行するなど、現地の要望に合うように支援を続けています。(通信員 榊原 晶子)



第18回 「税務・経理講習会」のご案内

税務改正等についての合同の講習会とコース別の講習で、生協の税務と経理の実務を学びます。

日時：2020年2月17日(月)13時～18時・18日(火)9時～16時30分

会場：兵庫県民会館10階「1001」

受講料：会員生協：2,000円／関連子会社：6,000円 ※受講料と別にテキスト代は実費徴収いたします。

講師：江藤 俊哉氏（税理士）

コース別講習内容： (1) 税制改正講習会（定員20名）

・内容：2019年度税制改正の解説

① 主な税制改正 ② 消費税改正対応

(2) 基礎から学ぶ法人税コース（定員15名）

・内容：法人税法の考え方の基礎から申告書の書き方

※2018年度開催の「法人税基礎コース」からステップアップした内容です

申込締切：1月23日(休)

参加申し込み・お問い合わせ：兵庫県生協連 TEL 078-391-8634

兵庫県生協連

第10回「労働安全衛生研修・学習会」のご案内

パワハラ防止法の施行が迫るなど、最新の法改正に対応することが喫緊の課題となっていますが、「働き方改革」が進む中、法令遵守と同時に定着し安心して働ける職場環境を目指すことが求められています。人が集まり、安心して働き続けられる職場とするために、今私たちがやるべきことについて一緒に学びましょう。

テーマ「新しい時代に人が集まる職場づくり」

日時：2020年1月27日(月) 15時00分～16時45分

受講料・無料

会場：兵庫県民会館 12階「1202」

講師：福西 綾美氏（ソフィアステージ社労士事務所代表・株式会社ソフィアステージ代表取締役）

対象：会員生協、団体の役員・職員 ※管理監督者及び現場第一線のリーダー層

定員：50名（先着順）

参加申し込み・お問い合わせ：兵庫県生協連 TEL. 078-391-8634

自然災害で被災した住まいの再建に備えて—兵庫県が実施する安心の制度—

兵庫県住宅再建共済制度 【フェニックス共済】



県内に住宅（戸建て・マンションなど）をお持ちの方に

住宅再建共済

年額5,000円で
再建・補修等に

最大600万円給付

※半壊以上（損害割合20%以上）

住宅再建共済にご加入の方に

一部損壊特約

年額500円で
補修等に

最大25万円給付

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅にお住まいの方に

家財再建共済

単独加入 年額1,500円で
住宅とセット加入の場合 年額1,000円で

購入・修復時に 最大50万円給付

※床上浸水又は半壊以上

フェニックス
サポーター
はばタン

あわせて備えて
もっと安心!

フェニックス
共済

他の共済
地震保険

※住宅の被害認定（損害割合）は、住宅の所在する市町が発行する「リ災証明書」によります。

フェニックス共済は単独でも加入できますが、他の共済や地震保険とあわせて加入ができます。

お問い合わせ・お申し込みは、ホームページまたはコールセンターまで!



兵庫県
(復興支援課)



公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

フェニックス共済

検索

コールセンター 078-362-9400 (平日9:00～17:00) Fax 078-362-4082



協同組合のかけ橋

JF

J F 高砂

JF 高砂がシルバー賞を受賞!!

～「漁船の安全対策に関する優良な取組に対する表彰」の表彰が行われる～

水産庁は10月28日(月)、水産庁長官室において「漁船の安全対策に関する優良な取組に対する表彰」の表彰式を開催し、JF 高砂（松本力組合長）がシルバー賞を受賞しました。

水産庁では、漁船からの海中転落や船舶の衝突事故により多くの命が失われている現状があるなか、漁船の安全対策に関する優良な取組を行っているJFを表彰し、その取組事例を積極的に広報することで、漁業者の安全に係る意識啓発や取組の推進に繋げようと平成28年度よりこの表彰を行っています。

賞はブロンズ賞、シルバー賞、ゴールド賞の3種で、ライフジャケットの着用義務等漁業者の安全に関する取組を継続し、かつ、漁船事故に伴う死者・行方不明者および漁船事故を伴わない海中転落による死者・行方不明者が発生していない期間を、それぞれ3年以上をブロンズ賞、通算5年以上をシルバー賞、通算7年以上をゴールド賞と定めています。

今回のJF 高砂は、30年以上続く高砂市漁連主催「海難防止講習会」の開催や、ライフガードレディースによるライフジャケット着用推進が評価され、2017年のブロンズ賞に続く受賞となりました。

表彰式では、全国からシルバー賞、ブロンズ賞それぞれ2JFが集まり、水産庁山口長官から賞状が、全国共済水産業協同組合連合会深瀬茂哉常務より副賞の盾が送られました。

なお、全国の受賞JFは次のとおりです。
シルバー賞、JF 高砂(兵庫県)、JF いたう(静岡県)
ブロンズ賞、JF 羅臼(北海道)、JF 田子の浦(静岡県)



受賞後の記念撮影(左からJF 高砂、JF いたう、山口長官、深瀬常務、JF 田子の浦、JF 羅臼)

JA

J A 兵庫西

タマネギの周年販売体制の確立と生産拡大に向けた支援

JA 兵庫西では、直売所で年間を通じてタマネギを販売できる体制を構築しています。主に大規模農家を対象として、タマネギの買取販売や生産拡大の支援を行い、農家の所得向上を実現しています。タマネギを買取販売の品目に選んだ理由は、年間を通じて消費者の需要に合わせた販売が可能で、販売価格を維持できるからです。

買い取ったタマネギはJAが整備した貯蔵庫で保管・管理し、消費者のニーズに応えながら出荷しています。また、全量買い取るため、所得は安定し、農家は安心して生産を続けることができます。

生産面では、播種から収穫までの機械化一貫体系を実現するため、農機の貸し出し体制を整えました。機械化によって作業の負担が少なくなるのはもちろん、農機の運搬や維持管理をJAが行うため、農家はさらに時間とコストを抑えることができます。このほか、営農指導員による、売れやすいタマネギをより効率よく生産するための指導も行います。

このようなJAの支援体制によってタマネギの栽培面積と収量は、買取販売を開始した平成29年度では3.6ha、144トだったものが、令和元年には16ha、685トまで拡大しました。

JAでは、生産の維持やさらなる拡大に向けて、担い手農家の育成にも取り組むほか、販路と消費の拡大にも力を入れています。



買い取り後のタマネギを貯蔵庫で保管



最近の消費生活相談事例

急増中! クレジットカードのトラブル

事例

突然、クレジットカード会社から20万円あまりの請求があった。私はインターネット通販での利用は月に5万円以内と決めており、店舗で利用した覚えもなく、この請求には全く心当たりがない。カードが不正に利用されたのではないかと心配している。(20代、女性)

【アドバイス】

昨年10月から消費税が10%に引き上げられましたが、ポイント還元制度があるため「現金払い」からスマホ決済やクレジットカード払いなどの「キャッシュレス決済」を利用する方が増えました。

クレジットカードは便利ですが、一方で様々な消費者トラブルが発生しています。クレジットカードトラブルの特徴としては、『不正使用』『カード名義人以外の使用』『多重債務』があげられます。

『不正使用』には①カード会社などからのカード情報流出、②店舗でカードを使用した際にカード情報を盗まれる(スキミング)、③金融機関等を装って偽サイトに誘導し、カード番号や暗証番号など個人情報を盗む(フィッシング詐欺)があります。

『カード名義人以外の使用』では、子どもが親のカードを無断で使用したり、知人にカードを貸してしまったりといったトラブルが目立っています。

『多重債務』では、クレジットカードを使いすぎて毎月の返済が困難になってしまうことです。

今回の事例の場合、不正に利用された原因は不明ですが、クレジット会社に問い合わせたところ、この相談者以外に同種の苦情が発生していることもあり、相談者への請求は取り下げられました。

クレジットカードの利用明細やネット通販の利用履歴、預金口座などはこまめにチェックし、身に覚えのない利用履歴や請求があればすぐカード会社等に確認することが大切です。また、ネット通販などでは信頼できるサイト以外にはカード情報を登録しないようにしましょう。さらに、家族や友人であってもクレジットカードは絶対貸さないようにしましょう。なお、クレジットカードの紛失・盗難に備えてカード会社の連絡先をメモしておきましょう。

困ったときは、お近くの消費生活センターに相談してください。

(兵庫県立消費生活総合センター)

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓



みなさま、あけましておめでとうございます。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江直記です。

みなさまのおかげで、無事、2020年を迎えることができました。ありがとうございます。今年はねずみ年ですね。実は私、年男なのです。なんだか、うれしい気持ちになりますね。ひょうご消費者ネットが活動を続けていけるのも、みなさまの支えがあってこそだと、実感することも多いものです。そうです。今年も、シンポジウムを開催致します。テーマは「老後2000万円問題」です。2020年3月7日(土)午後1時30分から、会場は神戸市教育会館です。講師には大久保育子さんをお迎えします。悪質業者な業者は、私たちの不安に付け込んでいます。「老後2000万円問題」も不安の一つだと思っております。正直に申して、私もその不安を抱えています。その不安をひとりで考え込まず、みんなで考えてみませんか。シンポの詳細はホームページ又はひょうご消費者ネット事務局(電話078-361-7201)までお問合せください。

(ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記)

ひょうご消費者ネット
連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com



MOVE

2019年度 ひょうご消費者セミナー ～キャッシュレス時代を生き抜くために～

2019年10月スタートのキャッシュレス・ポイント還元事業に伴い、キャッシュレス決済が急増しています。魅力的なポイント獲得や瞬時にできる決済の便利さ、しかし、その裏側には、思わぬトラブルが隠れていることも！ 講演では、キャッシュレス決済の仕組みや注意点をわかりやすくお伝えします。

- ◇日時：2020年2月5日(水)
13時30分～15時30分
- ◇場所：兵庫県民会館 10F 福の間
神戸市中央区下山手通 4-16-3
(JR・阪神元町駅より徒歩 10 分、地下鉄県庁前すぐ)



＜講演会＞



テーマ：「スマホ決済 これだけは注意！」

講師：原田由里さん（一般社団法人 EC ネットワーク理事）

安心して利用できるEコマース（電子商取引）市場を目指して活動。ネット関連の消費者相談を受ける。講演・啓発教材・書籍への寄稿や関係省庁研究会、業界団体等委員会などに参加。

＜〇×クイズ 活動報告＞

* NPO 法人消費者支援機構関西 (KC's) * NPO 法人ひょうご消費者ネット

- ◇参加費：無料
- ◇定員：90人（先着順）
- ◇申込締切：2020年1月24日(金) ※但し定員に達し次第締め切りとさせていただきます
- ◇主催：兵庫県生協連 コープこうべ 消費者支援機構関西 ひょうご消費者ネット
- ◇後援：兵庫県 神戸市

参加申し込み・お問い合わせ：兵庫県生協連 TEL：078-391-8634 FAX：078-392-2059

☆いただいた個人情報は本セミナーの参加取りまとめにのみ使用いたします。

県連行事予定

- 1月7日(火) 兵協連第3回生活問題研究会 (県民会館 きく)
- 1月9日(木) 兵協連第2回ピースアクション委員会 (県民会館 302)
- 1月11日(土) 新春トップセミナー(県民会館 福) 賀詞交換会 (県民会館 鶴)
- 1月16日(木) 兵協連第3回大学生協部会 (県民会館 301)
- 1月21日(火) 兵協連第5回生協活動委員会・第4回70周年記念事業委員会 (県民会館 301)
- 1月22日(水) 兵協連監事と代表理事懇談会 (県民会館 302)
- 1月27日(月) 兵協連第10回労働安全衛生研修学習会 (県民会館 1202)

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。さて、新年を迎えるにあたり、私も「新年の抱負」を考えました。「姿勢を良くする」です。猫背になりがちで、姿勢が悪く、体も硬い。そのせいで肩こりがひどいという悪循環に長年悩まされています。今年こそこんな現状から抜け出すために、姿勢を良くすることを新年の抱負としました。どこかでお会いした際に、もし私が猫背になっていた場合は「喝」をいれていただけだと思います。意識して頑張ります。今年も兵協連と「兵協連だより」をどうぞよろしく願っています。皆様にとって素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。(中村)